

# ポーランド・マクロ経済情勢

2020年11月  
在ポーランド日本国大使館  
経済班

## ポイント

### 1 景気は厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる

2019年のGDP成長率は4.5%で、引き続き好調な経済成長を遂げた（2017年は4.8%、2018年は5.4%）。足下では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響等により依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。但し、COVID-19感染状況や右に伴う規制措置の強化等の動向を注視する必要がある。2020年5月、COVID-19の影響等を勘案し、金融政策委員会は政策金利を史上最低の0.1%に再度引き下げるなど金融市場安定化のために金融政策を緩和。

### 2 生産・消費は持ち直しの動きが見られる

**9月の鉱工業生産は前年同月比5.9%増、小売販売は対前年同月比2.5%増。**COVID-19の影響は残るものの、生産・消費は持ち直しの動きが見られる。

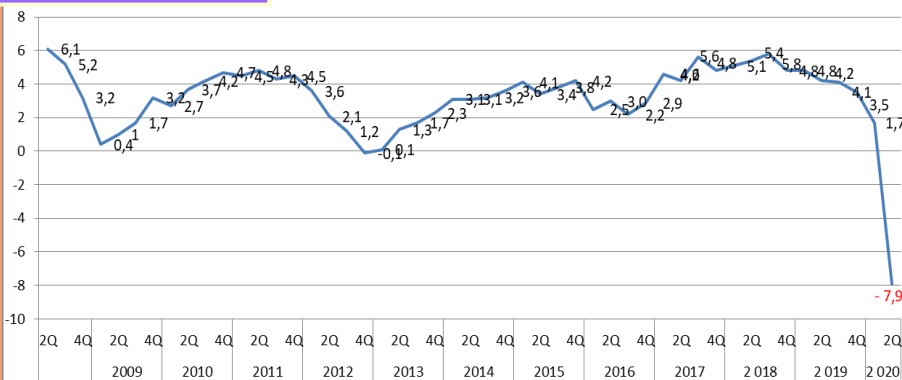
### 3 物価は上昇

**9月の消費者物価指数（CPI）は、対前年同月比3.2%上昇。**2020年4月以降は中央銀行のインフレ目標値2.5±1%の範囲内の数値内で推移。

### 4 雇用情勢は感染症の影響により弱い動き

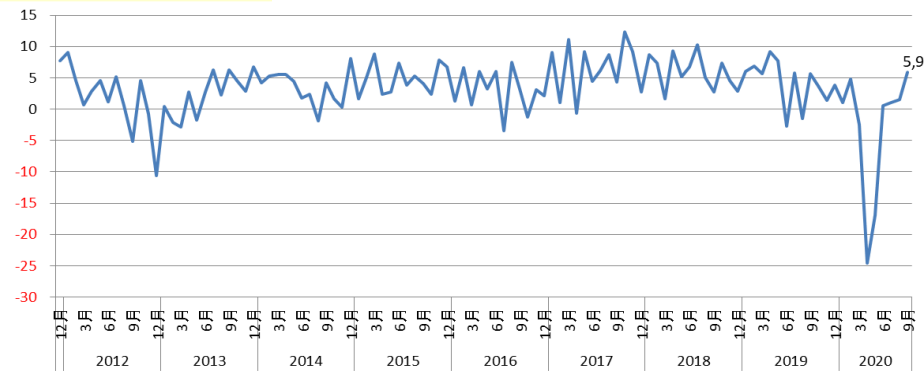
**9月の失業率は6.1%、平均賃金上昇率は対前年同月比5.6%増。**失業率は対前月比同、賃金上昇率は上昇したが、COVID-19の影響により、雇用情勢は引き続き弱い動きとなっている。

## 経済成長



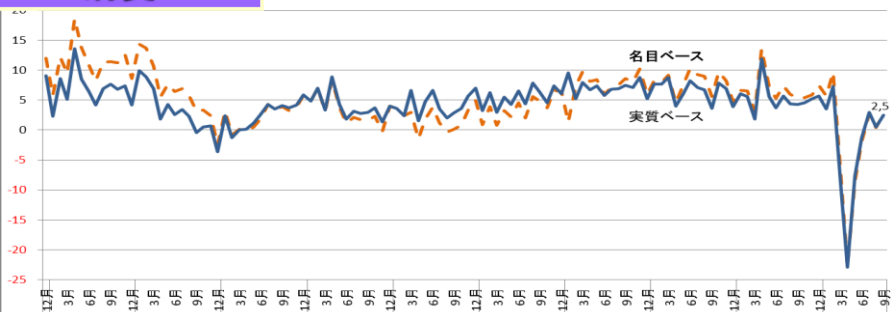
堅調な消費やEU基金を活用したインフラ整備等が経済成長に寄与するも、足下ではCOVID-19の影響によりGDP成長率は低下。

## 生産



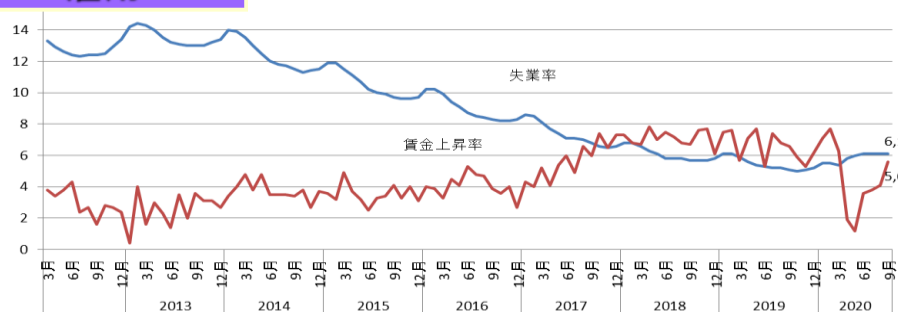
鉱工業生産は対前年同月比5.9%増と、感染症の影響は残るものの、持ち直しの動きが見られる。

## 消費



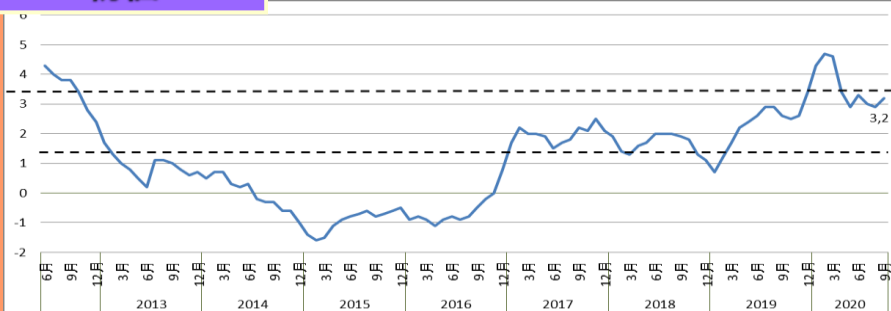
小売販売は対前年同月比2.5%増と、持ち直しの動きが見られる。

## 雇用



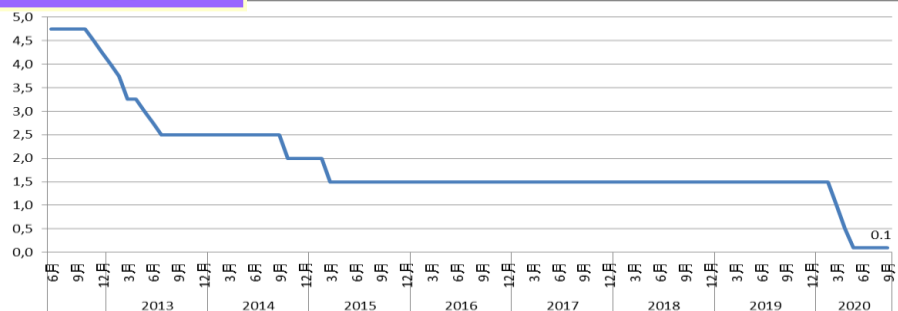
9月の失業率は6.1%で対前月比同。平均賃金上昇率は対前年同月比5.6%増に上昇。

## 物価



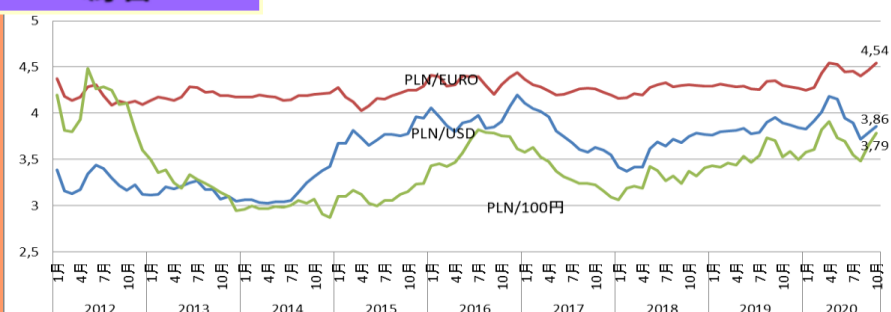
9月のCPIは対前年同月比3.2%上昇。2020年4月以降は中央銀行のインフレ目標値2.5±1%の範囲内で推移。

## 金利



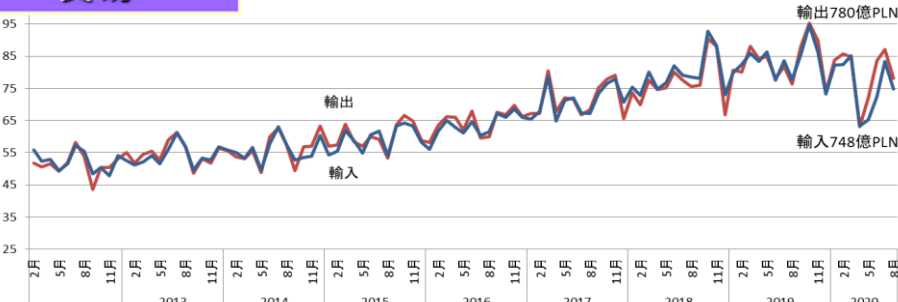
2020年6月、COVID-19の影響等を勘案し、政策金利を史上最低の0.1%に再度引き下げるなど金融市場安定化のために金融政策を緩和した。

## 為替



10月の平均為替は、対ユーロ(4.54ズロチ)、対ドル(3.86ズロチ)、対日本円(3.79ズロチ)でそれぞれズロチ安が進んだ。

## 貿易



8月の輸出は約780億ズロチ、輸入は約748億ズロチで約32億ズロチの貿易黒字となった(7月は36億ズロチの貿易黒字)。COVID-19の影響は残るものの、持ち直しの動きが見られる。